

平成 21 年度 大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～ グループ討議レポート

【E グループ 1 班】 グループ名：Heart Mountain

【タイトル】 情報技術を使った学生支援

【課題認識】

大学全入時代の到来や未曾有の経済危機によって、私学を取り巻く環境は厳しさを増している。このような中であって、志願者確保のみならず、多様化する入学者にどのように対応していくかが現在大学の直面している課題であると言えるであろう。

E グループ 1 班では、入職して 1 年目 2 年目の職員が多いことから、自身の学生時代に学生サービスに対してどのような要望を持っていたかという視点から出発し、多様な学生のニーズへの対応、さらに大学における教育の質保証に情報技術が利用できないか、その可能性を検討した。その結果、ポータルサイトの活用によって有効な学生支援が可能となるのではないかという結論に達した。

【討議内容】

・大学が抱える問題

少子化による大学全入時代の到来を迎え、大学を取り巻く環境はますます厳しいものとなっている。日本私立学校振興・共済事業団が 2008 年に行った入学状況調査（2008 年 5 月 1 日現在）によると、定員割れとなった私大は 47.1%（266 校）に達し、過去最悪の事態となった。さらに「ゆとり教育世代」の大学入学も重なって、大学側は学力水準、意欲、価値観において多様な学生に対応しなければならなくなった。

また、100 年に一度と言われる未曾有の経済危機によって雇用情勢は悪化し、2010 年 3 月卒業予定の大学生のうち、2009 年 5 月 1 日現在で内定を獲得している学生の割合は 49.5%と過半数を割っている（就職情報サービスのディスコが実施した就職活動状況調査による）。また、不況によって家計が急変する家庭も増加している。

上述のような背景から、現在大学は大きく 2 つの問題を抱えていると考えられる。一つは、入学生の多様化により修学意欲の低い学生が増加していること。また、それに起因する休学・退学の増加である。もう一つは、経済状況の悪化に伴う就職内定率の低下、学費未納者の増加である。

・大学がなすべきこと

これらの問題に対処すべく、大学は何を行うべきか。まず、第一の問題である修学意欲の低い学生に対しては、学生・教員・職員の三者間のコミュニケーションを活発化させることが重要であると考えられる。この三者間で適切な情報提供および情報の共有が行われていれば、学生の孤立化を解消し、ドロップアウトを未然に防ぐことができると思われるから

である。

第二の問題に対しては、就職支援や奨学金情報の提供を積極的に行うことが考えられる。現在でも担当部署において情報の提供は行われているが、実際にその部署に足を運ばなければ情報が得られない、膨大な情報の中から自分の欲しい情報を探し出せない、そもそもどこへ行けば情報を得られるのかわからない、といった状況があることも事実である。

【提案内容】

では、学生への情報提供、教員との情報共有、また学生・教員・職員三者間のコミュニケーションの活性化のために、情報技術を使ってどのような方策が可能か。私たちの班では、近年多くの大学で整備されつつあるポータルサイトに着目した。以下はその具体例である。

①欠席の多い学生へのフォロー

すでに一部の大学では行われているが、学生証に埋め込まれた IC チップを利用して、各授業科目における学生の出席状況を把握し、その情報を職員・教員間で共有するだけでなく、ポータルサイト上で学生にも提供する。学生本人が自身の出席情報を確認できるのはもちろん、出席状況の芳しくない科目については、事務局側からメッセージを送ることで注意を喚起することも可能である。

②コミュニケーション活性化のために

ポータルサイト上での教員のオフィスアワーの掲載、教員のメールアドレス公開を行うことで、学生から教員にコンタクトを取りやすい環境を作る。ただし、メールアドレスの公開にあたっては、学外からの迷惑メール防止のため慎重な取扱いが必要である。

③就職支援の充実

ポータルサイト上に就職活動情報を掲載する。例えば、過年度の就活体験記ではなく、リアルタイムの情報を提供することで、他の学生の動向を知ることができるようになる。また、ある大学で実際に行われている取組みには、企業を業種別・地域別等で検索できるのみならず、その企業に OB がいるかどうか、いる場合は連絡先を掲載することで OB 訪問を行いやすくする工夫がなされている。さらに、自分の内定状況をポータルサイト上で確認できるようにもなっている。

④奨学金情報

奨学金は多種多様なものが用意されており、その中から自分の条件に合致するものを探し出すのは容易ではない。ポータルサイト上に検索機能付の奨学金情報を掲載することで、学生は担当窓口へ相談に行く前に、ある程度自分に合ったものを絞り込むことができる。

・まとめ

ポータルサイト一箇所に情報を詰め込み過ぎることの危険性等、サイト運用上の諸問題についてまでは議論が至らなかったものの、既存のポータルサイトに上記のような機能を追加し、より有効に活用することによってさらなる学生サービスの向上が期待できると考えられる。